

暮らす喜びが豊かに深まる家とは。

小さくとも、質素であっても品格があり、バランスの良い適正なコストでつくられていること。

制約がある中で暮らしを真摯に見つめ、機能的な住みやすさと共に潤いもあること。

喜びや哀しみと共に変わりゆく家族の暮らしを受け止める柔軟なプランであること。

気候風土にだけ込むベーシックなデザインで、次世代まで愛着を持って長く住まえる美しさと強さが備わっていること。

時の経過に色あせず、貧相にならない吟味された素材を生かし、職人の卓越した技能でかたちづくられていること。

いたずらにエネルギーを浪費しない賢い生活と、健康的で快適な住み心地を両立する技術が込められていること。

住む人、それぞれが思い描く「暮らす喜びが豊かに深まる家」を探しだし、生み出すことに私たちはこだわりたい。



「雲辺寺山ヒノキの家」構造見学会開催

開催日時：2017/4/9（日）および 4/23（日）10:00～17:00

場所：高松市内。お申し込み頂いた方に地図をお送りします。

見学方法：事前予約制です。4/9の見学は4/6（木）までに、

4/23の見学は4/20（木）までに下記までお申し込み下さい。

お申し込み先：（有）小松秀行建築工房

TEL：087-889-7871 メール：komaken@mxi.netwave.or.jp

FAX：087-889-7872 ホームページ：<http://khkk.net>



■山からまちへつなぐ想い

雲辺寺山の南嶺の森で親子二代にわたって大切に育ててきたヒノキ材を、この家のために提供して下さった林業家の想いに感謝し、自然乾燥した香り高い無垢材を柱や梁に使用。時と共に色ツヤが深まる良材です。家の中央には自然の造形を大胆に生かした“根曲がり材”の梁がかかり、その上には幾重にも交差した圧巻の小屋組が、天井のない大屋根空間を力強く支えています。

■終の棲家

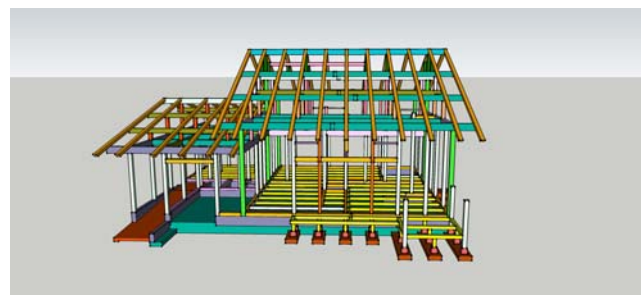
住まい手夫妻はシニア世代。これから迎える介助・介護や歩行に不自由を感じ始めた奥様のことを考え

てバリアフリー化。寝室すぐ隣りの広い浴室・トイレなど、1階だけで生活できる機能的な間取りが老後の暮らしを助けます。また、互いの趣味を暮らしの中で楽しむアトリエも注目です。

■自然の力を生かす

本当の住み心地の良さは機械だけでは生まれません。香川の気候風土に適した屋根勾配や深い軒、窓の配置や庇など、自然と調和する日本の住まいの知恵を生かし、太陽光や風などの自然の力を季節の中で巧みにコントロールしています。また、LDKを含めた広さ40畳の室内を6畳用エアコン1台でまかなえる高い断熱性能で、冬も寒さ知らずの至福の住み心地を実現しています。最新の技術が生かされた地球環境にやさしいゼロ・エネ住宅として165万円の補助金も受けています。

高い品質とこだわりや工夫が一杯の「雲辺寺山ヒノキの家」の構造見学会に是非お出で下さい。



設計・施工

有限会社 小松秀行建築工房

外よりキケンな家の中 !?

■「家は夏をむねとすべし」は本当か？

兼好法師が徒然草に「家のつくりやうは夏をむねとすべし。冬はいかなる所にも住まる」と書いた有名な一節があります。つまり住まいは夏の暑さのことを考えて工夫しなさい、冬は何処でも住めると説いているのですが、これは兼好法師の生きていた頃だけでなく、つい100年ほど前の明治大正頃までは正解でした。その頃の月別死亡者数は8月が最も多く、死亡原因は食中毒などでした。しかし、冷蔵庫が一般家庭に普及するとともに衛生環境が改善され、夏の死者数は劇的に減少しました。



表-1 家庭内の不慮の事故死(2010年 人口動態統計)

	総数	内65歳以上
家庭における不慮の事故死 計	14,249 (100.0%)	11,429 (80.2%)
転倒・転落	2,656 (18.6%)	2,112 (79.5%)
同一平面上での転倒	1,432	1,278
階段やステップでの転落・転倒	426	317
建物や建造物からの転落	398	177
その他の転倒・転落	400	340
不慮の溺死・溺水	4,340 (30.5%)	3,861 (89.0%)
浴槽内での溺死・溺水	3,977	3,540
浴槽への転落による溺死・溺水	32	29
その他の溺死・溺水	331	292
煙、火および火災への曝露	1,159 (8.1%)	730 (63.0%)
その他の不慮の窒息	4,143 (29.1%)	3,497 (84.4%)
気道閉塞を生じた食物等の誤えん	3,072	2,707
その他の不慮の窒息	1,071	790
熱および高温物質との接触	106 (0.7%)	94 (88.7%)
有害物質による不慮の中毒・曝露	473 (3.3%)	114 (24.1%)
その他の不慮の事故	1,372 (9.6%)	1,021 (74.4%)
(参考) 交通事故死	7,222	3,774 (52.3%)

■家庭内の死亡事故

現在、家庭内の不慮の事故で亡くなる方は、2010年の統計によると14,200人を超えており、交通事故(約7,200人)の2倍ほどの方が家庭内で亡くなられています。なんと外より家の中がはるかに危険という事になります。

■圧倒的に高い冬のリスク

家庭内事故での死亡場所は浴室が最も多く、季節は冬が多くなっています。浴室での事故の状況は浴槽内の溺死・溺水です。冬の暖かい居間と寒い脱衣室・浴室の温度差が原因のヒートショックによる身体へのストレスが原因のひとつと考えられています。

先日亡くなられた平幹二郎さんも浴槽の中で心肺停止状態で発見されたそうです。前日まで元気だったとのことですのでヒートショックによる事故ではないかと考えられます。

これを防ぐ為には脱衣室・浴室の室温を上げ、居間などとの温度差を少なくする事です。新築はもちろん、今お住まいの既存住宅でも断熱改修や暖房器具の活用でヒートショックのリスクが低減するといわれています。

■寒い地域と温暖な地域、どっちが危ない？

また、都道府県別にみた高齢者1万人あたりの入浴中の心肺停止発生件数(CPA)は、何と私達の住む香川県が全国1位で兵庫県が2位となっています。寒いはずの北海道や山梨県・青森県は逆に少なく、原因としては北国に比べ、香川県などの温暖地の方が住宅の寒さ対策が不十分で、浴室・脱衣室などの冬の室温が低くヒートショックになりやすいことがあげられています。

温暖な瀬戸内海式気候で暮らしやすい香川県も、冬は零度前後まで冷え込み寒いので、住宅の断熱対策などを適切におこなう必要があることが判ります。(文責：小松秀行)

【図3】入浴中の心肺機能停止者数(2011年)東日本23都道県379消防本部

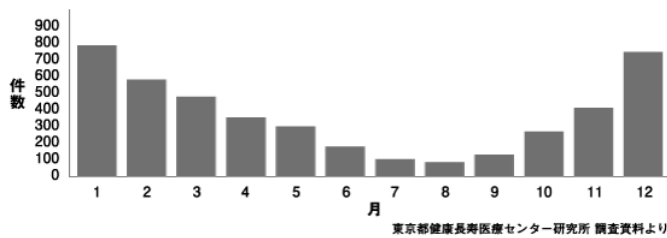


表6 都道府県別にみた高齢者1万人あたりCPA件数(件)

順位	都道府県名	調査票送付本部数	有効回答本部数	所轄総高齢者人口(人)	CPA総件数(件)	高齢者1万人あたりCPA件数(件)
1	香川県	9	6	187,106	184	7.16
2	兵庫県	24	16	855,166	552	6.45
3	滋賀県	7	6	265,727	155	5.83
4	東京都	6	3	2,652,310	1,545	5.83
5	和歌山県	17	15	230,495	133	5.77

42	千葉県	31	27	1,199,818	336	2.80
43	高知県	15	12	188,032	49	2.61
44	青森県	14	14	359,829	93	2.58
45	山梨県	10	8	181,184	46	2.54
46	北海道	67	59	1,294,989	263	2.03
47	沖縄県	18	8	78,677	14	1.78